

道連ニュース

2025年12月号 No.228

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3
こくみん共済c o o p 北海道会館内
TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605
URL : <http://www.doren.coop>

生活クラブ生協

わくわくまつりを開催しました

2025年11月2日(日)、グランドメルキュール札幌大通公園を会場に、生活クラブ生協主催の「第41回わくわくまつり」を開催しました。

今年のテーマは「つくる手 食べる手 その手はひとつ」、サブテーマは「なるほど！なっとく👉生活クラブ」です。生活クラブの魅力を、見て・食べて・体験して知つていただけるよう工夫しました。

当日はあいにくの天候となりましたが、約850人が来場し、朝から来場者が途切れず、会場は活気にあふれました。生産者・組合員・職員が協力して準備を進め、生活クラブの消費材や多様な活動を市民に伝える機会となりました。

会場には道内外から35の生産者が参加し、組合員スタッフとともに消費材販売を担当しました。来場者が生産者に直接質問しながら品物を選ぶ姿や、組合員



美味しい体験が満載！来場者の笑顔があふれました

が試食をすすめて特徴を説明する場面が続き、あちこちで生産者と来場者のやりとりが広がりました。

また、福祉、自然エネルギー、森づくり、ごみ削減、石けん推進、平和への取り組みなど、組合員による活動紹介ブースも展開しました。関心を寄せた来場者が足をとめ、組合員と意見を交わす様子が見られ、活動への理解が深まる時間となりました。

子どもコーナーでは割りばし鉄砲やお菓子つり、木のおもちゃなどが好評を得ました。さらに、ご当地ヒーロー「ソーランドラゴン」が登場し、写真撮影やパフォーマンスで会場を盛り上げ、家族連れて終日にぎわいました。

「わくわくまつり」は、市民に生活クラブの取り組みを紹介するとともに、生産者・組合員・職員が共同購入の意義や価値を改めて確認する場でもあります。今後も、まつり開催の意義を忘れずに開催を継続していくたいと考えています。



子どもたちに大人気ソーランドラゴン



2025年度



第3回 理事会
(11月13日)

開催報告

11月13日(木)ホテルポールスター札幌にて五十嵐理事（北海道学校生協）を議長に選出し、開催致しました。

冒頭、中島会長の挨拶ののち、以下の事項について提案があり承認されました。

【議決事項】

1. 熊本県令和7年8月豪雨支援募金拠出の件
2. 2026年度会費(案)の件
3. 子どもの居場所づくり応援基金100万円と運営費70万円の拠出の件
4. 核兵器も戦争もない世界を」を求める要請文（アピール）連名協力の件
5. 2025年度 第4回理事会（1月22日）開催時間変更の件

【審議事項】

1. 70周年記念事業の取り組み
2. 福祉灯油等福祉的措置を求める取り組みの件
3. 協同組合ネット北海道の取り組みについて
4. ほっかいどう若者応援★学生PJの取り組みについて
5. こども食堂北海道ネットワーク事務局支援について
6. LPガスの取り組みの件

【報告事項】

1. 一般活動報告の件
2. 2025年度第2回理事会議事録の件
3. 2025年度上期決算の件
4. 2025年度第2回監事会及び上期監査報告の件
5. 会員報告・・コープさっぽろ
6. 北海道からの通知及び友好団体・協賛・後援の件
7. 日本生協連北海道・東北地連報告・・「地域共創ジャンボリー」開催報告

『ごみはどこへ？ 川の魚は元気かな？』開催報告

～親子で探る、暮らしと自然のつながり発見ツアー～

去る10月25日(土)、私たちは「ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト」から事務局メンバーとして、第7弾企画「ごみはどこへ？川の魚は元気かな？」親子で探る、暮らしと自然のつながり発見ツアーに参加しました。

この企画は、江別市にある「コープさっぽろエコセンター」と千歳市の「サケのふるさと千歳水族館」をバスで巡るというものです。体験格差の解消を目的と

開催概要

開催日時：10月25日(土) 8:45～16:15

行き先：コープさっぽろエコセンター&サケのふるさと千歳水族館

参加者：親子15組(33名) +事務局7名 計40名

主 催：北海道生活協同組合連合会・ひとり親と子どもふぉーらむ
北海道・株式会社 FUJI

協 力：ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト

した企画でもあると伺い、私たちも子どもたちと一緒にごみのことや魚の話をたくさん聞き、学び、楽しむ、充実した一日となりました。

午前の部：「ごみ」の行方とリサイクルの現場

午前中に訪れたコープさっぽろエコセンターでは、まず「ごみ」の行方とリサイクルの仕組みについて学び、普段私たちが出しているごみが、どのように処理され、資源として再利用されるのか、様々な設備、機械を見ながら説明を受け、プラスチックゴミが処理される様子や、実際に機械が動く様子に、子どもたちは本当に興味津々な様子でした。

巨大な木製オブジェの「エコわっか」もとても人気で、エコセンターの役割やリユース・リサイクルの仕組みを、親子で楽しみながら学んでいる姿が印象的でした。また、「あすもり資料室」では、コープさっぽろの森づくりの取り組みを五感で感じながら、親子で話し合っている姿も見られました。

私たち自身も、普段のごみの分別が環境に与える影響の大きさを知り、より多くの資源を循環させ

ていくことの大切さを改めて痛感し、観察を通して、参加された皆さんの「しっかり分別しよう」という気持ちが高まったように感じます。





午後の部：「川の魚」から学ぶ生命(いのち)のつながり

お昼を挟んで、午後からはサケのふるさと千歳水族館へ移動、ここでは笑顔で楽しむ親子の姿が多く見られました。特に、普段は見ることができない水族館の裏側を見学する「バックヤードツアー」は、私たちにとっても本当に貴重な体験となりました。

水槽を上からみる場所に行く時、「落ちたらどうしよう！」「怖い！」等、子どもたちに少し緊張が見られましたが、それも良い思い出になったようです。参加した子どもも保護者も、とても興味津々に水族館スタッフの説明に耳を傾けていました。

水中観察窓から実際の千歳川を覗き、サケや他の魚が元気に泳ぐ姿を観察できたことも大きな学びでした。午前中にエコセンターで学んだ「正しいごみの処理」、こうして川の生き物を守ることにつながっている、という企画のテーマへの関心が高まっているようにも思いました。



自由時間には、初めて水族館に訪れたという参加者も多く、「これはなに？」「次はあの魚を見に行こう！」と、様々な魚との触れ合いに子どもたちは興奮が止まらない様子でした。

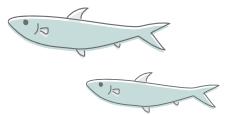
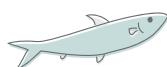
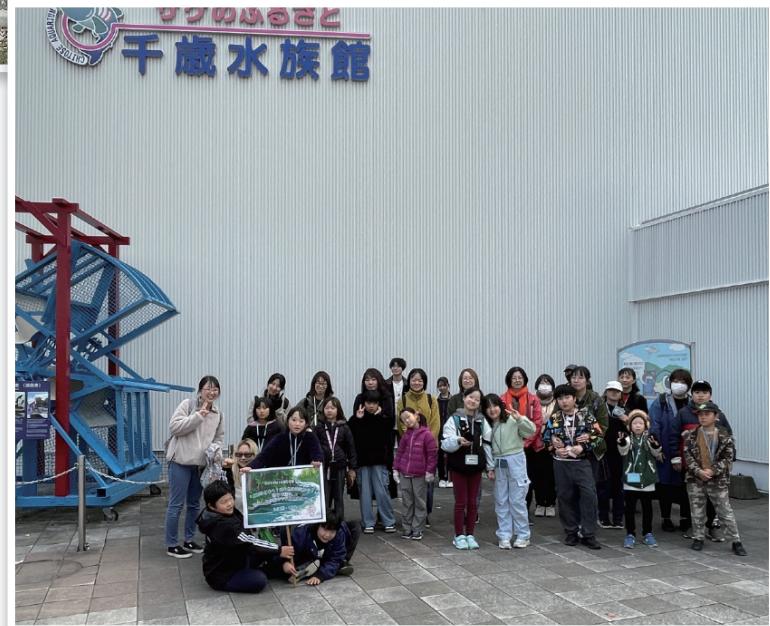
私たち自身も、初めて行く水族館だったこともあり、子どもたちと一緒に色々な魚を見てとても楽しむことができました。親子で考えながら進めるクイズラリーも、楽しく学ぶ姿につながっていました。



企画に参加して：私たちも一緒に学んだこと



今回の企画を通して、私たちはエコセンター、水族館スタッフの方から今後の生活に活かせる話をたくさん聞くことができました。「なぜサケはきれいな川にしか戻れないの？」という疑問から、ごみの分別の大切さ、そして「お魚を守るために何ができるだろう」と子どもたちが考えるきっかけになる、そんな大切な体験の場にご一緒にさせていただきました。私たちも子どもたちと一緒にになって楽しめ、多くのことを学べた一日でした。



参加者の声 ※アンケートより抜粋

- エコセンターの見学がとくに良く、実際にリサイクルされている処理や現物もみれてイメージがわきました。ゴミの捨て方を親子で話すきっかけとなり、リサイクルやゴミを減らすことへの興味がますます湧いていました。
- 千歳水族館のバックヤードツアーがすごくよかったです。「少し怖かったけど楽しかった」「裏側を知れて水のろ過の勉強にもなり、貴重な体験でした」と、親子ともに好評でした。
- 「娘が以前に鮭の生態を自由研究に選んで以来、ずっとサケの水族館にも行ってみたいと言つて

おり、沢山メモを取るなど充実した見学になりました」という声や、「解説の方の楽しくも真剣な仕事ぶりが伝わるお話が印象的でした」という感想もいただきました。

- 帰り道では、学んだことや疑問に思ったことなど沢山のお話をしてくれました。とても楽しく、学びのある時間だったようです。
- エコセンターから水族館の流れで、「ゴミを捨てない」というテーマがすごく良かったです。子どももゴミ分別、資源回収の意識が高まりました。

11月4日(火)

経済産業省北海道経産局・北海道へ物価対策・福祉的措置を求める要請行動を行いました。

高市政権による物価高騰対策及びガソリン暫定税率廃止に伴う燃料油価格支援策（定額値下げ措置）の廃止が予定される中、灯油価格に関する報道がなく、消費者及び経済的・社会的弱者の負担増が見込まれるため、負担軽減のための灯油等の助成措置を国・北海道に対し以下の内容での要請書を提出致しました。

〈要請者〉

北海道生協連専務理事	平 照治
コープさっぽろ理事 組合員活動委員会委員長	犬島 奈美
同 組合員活動部活動推進グループ長	河井 とわ

〈対応者〉

経済産業省北海道経済産業局 資源・燃料課長	五十嵐 岳紀 様
北海道 保健福祉部地域福祉課課長	鹿野 なほみ 様
北海道 経済部経済企画課 課長	篠原 裕史 様



経済産業省北海道経済産業局へ要請



北海道経済部・保健福祉部へ要請

経済産業省北海道経産局への要請項目

(1)

物価及びエネルギー価格の高騰が家計を圧迫しています。消費者への影響を緩和するための施策を早期に講ずること。特にガソリン暫定税率廃止後、灯油価格のみが高騰しないよう、価格抑制のための施策を求めます。

回答

政治判断前の段階で灯油に関する報道はないが、資源エネルギー庁としては2026年4月1日暫定税率廃止迄、定額引下げ措置は灯油含め一体のものとして考えているので、それまでは、補助が継続される方向で考えている。と聞いています。

(2)

主に福祉灯油などの軽減措置等に対する国からの財政措置を講ずること。

回答

補正予算の規模は決まっておらず、昨年同様、重点支援交付金の位置づけの中に示されることでの要請を伝えたい。

北海道

(1)

主に非課税世帯対象の福祉灯油などの施策に関し、支給対象及び支給額の引き上げなど含む財政措置を関係部局と連携し講ずること。

24年度実施市町村は150でした。（前年比+4）25年度は、補正予算が未定につき、原資となる「地域づくり総合交付金」増額については未定です。物価高騰や灯油情勢については認識しており、実施市町村の拡大に努めてまいりたい。非課税世帯を超える支給事例については、紹介を進めます。

回答

(2)

全市町村に対し、積極的に福祉灯油等の支援策を講じるよう周知を行ってください。

機会あるごとに、実施市町村の事例紹介を含め対応してまいります。

回答

(3)

消費者へ物価高騰の影響を軽減するための施策を関係省庁と連携し早期に講ずること。

補正予算の規模等が未定につき、既に道として北海道経済対策推進本部を立ち上げ、物価高騰対策の支援メニューの検討をおこなっており、今般の要請も検討させていただきます。

回答

11月18日(火)

令和7年度 北海道地域灯油意見交換会参加報告

経済産業省・北海道主催での消費者・事業者・行政による標記意見交換会が経済産業省北海道経済産業局会議室にて開催されました。

経済産業省北海道経済産業局資源エネルギー環境部長横田純一様の開会挨拶の後、「灯油需給について」は、「需要は年々減少していることから、北海道でも前年比91.9%、25年度の在庫状況も、11月1日時点で260.3万㎘と前年並みの水準を確保とのことです。

「灯油価格について」は、北海道の灯油スタンダード価格は全国平均に比し店頭価格は高く、配達価格は安い傾向にある。今後、為替の影響も円安傾向で上昇要因はあるが、原油価格の見通しは値下

がりとみる向きが多い、但し先行きは不透明感の余地がある、との報告がありました。最後に基調報告として燃料流通政策について資源エネルギー庁資源燃料部 燃料流通政策室長 甲元 信宏氏より、ガソリン暫定税率廃止に伴う定額引下げ措置の取り扱いについて、灯油への5円の補助金は2026年3月末まで継続となること、重点支援交付金メニューにおいて、物価高対策として低い所得者向けの灯油負担軽減措置も盛り込まれたことも報告されました。私たちからは、原油価格の見通しや灯油価格高止まりへの負担軽減策、過疎SS問題、新エネルギーの開発等について質問を行いました。